

5.17

■司会 高杉 良知<広島県> 広島県教育委員会生涯学習課主査兼社会教育係長
甲田真理子<熊本県> 熊本県教育庁社会教育課社会教育主事

1. 総合行政によるまちづくりと生涯学習の推進

14:15~14:40

井関 嘉昭<長崎県> 琴海町教育委員会派遣社会教育主事

一般行政部局、教育行政部局が一体となり、まちづくり事業、地域住民への生涯学習に関する意識・活動の実態を把握するための各種調査、生涯学習の推進を図るため社会教育委員会への諮問に基づく答申等に取り組んできた。その過程、成果、課題について発表する。

2. 衛星通信利用による広域公開講座

14:40~15:05

— 高等教育機関と公民館の連携の試み —

新田 憲章<広島県> 広島県教育委員会生涯学習課社会教育主事

高度化、専門化している学習ニーズに対応するため、高等教育機関と地方公共団体との連携による公開講座が各地で開催されるようになった。しかしながら、高等教育機関がない等地理的、時間的制約があり、自由に学習機会を選択して学ぶことが困難な地域もある。そこで、衛星通信を利用して、広域地域へ公開講座を提供できる実証的な調査研究を実施した。その成果及び課題について発表する。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 「かごしま県民大学」学習機会体系化構想と調査研究の成果

15:40~16:05

上野 正一<鹿児島県> 鹿児島県教育庁社会教育課指導主事

県下全域を生涯学習のキャンパスとすることを目指し、「かごしま県民大学」構想を打ち立て、様々な機関が連携して学習機会を提供している。今後はそれぞれの機関が独自に行っている学習機会を体系化し、統一化した評価と活用のシステムを開発することが課題である。そのため大学教授等からなる「かごしま県民大学」学習機会体系化調査研究会を設置し、検討を行っている。

4. 公民館の模索 — 成人講座「街ぐわー経済学儲き塾」 —

16:05~16:30

山田 民子<沖縄県> 那覇市教育委員会生涯学習課社会教育指導員

これからの沖縄を背負って立つ若者に、地域の力になってもらうための方法を模索した結果、この講座が生まれた。この講座では、若者が中心となり、すべての人に公民館を利用してもらうためにはどのようにすればいいのかを考察した。さらに、考察に基づき企画を立案し、実施した。この講座を設けた経緯、過程、成果、課題について発表を行う。

5. 総括討論

16:30~17:00

■司会 星山 晃 <熊本県> 阿蘇教育事務所社会教育主事産山村教育委員会派遣
小副川ヨシエ<佐賀県> ボランティアグループ「クリエイト」代表

5.17

1. 県立生涯学習センターにおける学習ボランティアの実際

14:15~14:40

ーアバンセ サポーターの試みー

瀧田 桂子<佐賀県> 佐賀県立女性センター・生涯学習センター「アバンセ」サポーター代表
「女性センター」「生涯学習センター」を併設している県立施設「アバンセ」。そこで学習をしている学習者で、施設ボランティア「アバンセ サポーター」が結成された。学習ボランティアであり、学習者である発表者が、結成されるまでの経緯、実際に行っている活動、課題について発表する。

2. 女性のふるさと再発見「石橋案内人」の試み

14:40~15:05

河野 哲子<大分県> 「石橋案内人」代表

地区公民館で開催された「女性スクール」を1年間受講。「ふるさと再発見」をテーマに、日本一の数を誇る地域の石橋について学習を行った。その後、働く傍ら、年間平均13回程度の石橋案内をボランティアで行っている。石橋への先人の思い、石工の思いを中心に、女性の感性で、楽しく、優雅に石橋を案内。これまでの活動内容、成果、課題について発表する。

～ ティータイム ～

15:05~15:40

3. 自主保育サークル「どーなつつくらぶ」の活動と今後の課題

15:40~16:05

五十嵐道子<長崎県> 「どーなつつくらぶ」代表

母親と子どもが楽しく遊ぶことを目的として結成。親子がペアで参加し、母親も子どももそれぞれに交流。母親の相談相手や話し相手、子どもの遊び相手の確保に大きく貢献している。次第に地域との関わりにも目を向けはじめ、現在では、子どものためのフェスティバルや老人のデイケアサービスへ出かけたりと活動の場を広げている。活動内容、成果、これからの課題について発表を行う。

4. 女性の村づくり「第二期四万十川源流塾」の取り組み

16:05~16:30

岡田 りえ<高知県> 大野見村「第二期四万十川源流塾」代表

「第二期四万十川源流塾」は、会員25名の女性だけの自主活動グループで、以下の4班編成である。1班「ぬくもりのある村づくり」伝統文化、生活文化の保存、2班「快適生活の村づくり」環境問題ーリサイクル・ゴミの分別収集等、3班「希望のある村づくり」村のマップづくり等、4班「夢の語れる村づくり」家庭教育学級等。地域おこしの女性リーダーとして、村の発展に寄与することも考えている。

5. 総括討論

16:30~17:00

5.17

■司会 内村 和洋<鹿児島県> 鹿児島県教育庁社会教育課社会教育主事
高橋久仁子<高知県> 高岡郡葉山村役場主監

1. 香春町芸術文化であい事業 -文化施設の活性化と町民参加の方法- 14:15~14:40

高山 昌之<福岡県> 香春町教育委員会社会教育課長

この事業は、町民が芸術・文化に触れる機会を増やすことを目的として企画された。町民が他市町村の美術館や音楽ホールなどの文化施設のイベントに参加する際に、子どもには全額、大人には半額の補助をすることで、芸術の鑑賞機会を提供している。このことは、その地域の文化施設を広域で利用することの促進にもつながっており、施設の活性化にも貢献している。

2. 美祢国際大理石シンポジウムの展開と成果 14:40~15:05

安藤浩太郎・石田修詳<山口県> 美祢国際大理石シンポジウム実行委員会

美祢の白大理石を新たに文化活動の一環として、彫刻に活用し、地場産業振興や地域の活性化を図ろうと、世界で活躍中の6人の彫刻家を招待し、創作活動を公開している。地域住民の芸術意識の高揚を図り、このシンポジウムを地域に根づいた事業にするために努力している。開催までの経緯、開催中の内容、成果、課題について発表を行う。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 青年団の挑戦 -自分づくりからまちづくりへ- 15:40~16:05

松田 和弘<宮崎県> 小林市青年団協議会長

無気力と言われる青年達が、合唱やアイガモ農法による稲作を通して、自分づくりを始めた。皆の気持ちが一つになり、心から涙し、仲間の存在や自分の役割を認識することで、自分に自信を深めている。そのきっかけとなった活動の経緯、青年達の変化を含めた成果、これからの課題について発表を行う。

4. PTAにおける環境教育への取り組みとふるさとファームステイ 16:05~16:30

西本 直之<熊本県> 菊池郡旭志中学校PTA会長

日本一のほたるの里にある旭志中学校では、平成7年度から2年間、環境教育研究推進校の指定を受けた。子どもたちは生徒会を中心に環境問題に取り組み、PTAでは子どもたちが農家に泊まり込む「ファームステイ」を企画。地域の産業に直に触れ、ふるさとを見直し、家族を考える機会として子どもたちに好評を得ている。

5. 総括討論 16:30~17:00

■司会 野中 道八<高知県> 宿毛市教育委員会社会教育主事
川副 知子<佐賀県> コープさが生活協同組合理事

5.17

1.クラシックバレエによる楽しいリハビリと社会参加の道

14:15~14:40

森田 順子<福岡県> 社会福祉法人希望の丘養護・特別養護老人ホーム「聖母園」寮母

聖母園を利用している養護・特別養護のお年寄り達のリハビリ及び日常生活の活性化を目的に、9年前よりクラシックバレエを取り入れている。仲間と一緒に楽しくやれる、車椅子でも参加できる、職員との交流も図れるという利点が効を奏して、お年寄り達の身体にも生活にもよい変化が現れている。現在70~90歳代の30名~40名を中心に活動しており、園内のみにとどまらず社会参加もできるバレエ団として取り組んでいる。

2.生涯学習・人材バンクかがやきびと事業の成果と課題

14:40~15:05

江崎 文博<熊本県> 人吉市教育委員会生涯学習課社会教育主事

「かがやきびと事業」は、平成7年度から2年間、生涯学習モデル市町村事業の指定を受けて取り組んできた。これは地域の人材の発掘、ボランティア指導者の育成、小グループの学習活動への活用を目的としたものである。「かがやきびと」とは、広く一般市民から募集した、いろいろな特技、知識、技術を持つ方々の呼称である。これまでの実践による成果と今後の課題、「かがやきびと」の学校派遣による学社連携の状況などについて発表する。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3.市民互助型団体「福岡たすけあいの会」の理念と活動

15:40~16:05

牛島 丸實<福岡県> 「福岡たすけあいの会」会長

困ったときはお互い様と市民が支え合う自立した市民の団体で、大学生から70歳代の男性、女性のボランティアが活動している。少子化、高齢社会を迎え高齢者が高齢者を介護する時代に入った。そこで、サービス提供者を戸口から戸口まで送迎するシステムを作り、高齢者も会の活動に参加できるようにした。若い母親の子育ての応援、介護、話し相手、通院の手伝い、家事の手助けと様々な活動を行っている。会の理念と実践活動の内容を報告する。

4.親子で取り組む国際ボランティア事業「緑の協力隊」の目的と成果

16:05~16:30

澤 健一<鳥取県> 岩美町「緑の協力隊」第2次隊長

今年で3回目を迎える砂漠緑化の実践活動である。町民、親子が隊を組み、中国黄河の奥地にある砂漠に出かけて、地球環境の砂漠化を少しでもくいとめるべく、ポプラを植樹する。その道程で、中国の小学校との交流をしたり、参加した親子の絆を深める。同行する老若男女が語り合いながら次世代の育成を図り、その中で日中友好とボランティア活動、そして世代間の交流を図ることを目指している。その取り組みの経緯や成果、今後の展望などを述べる。

5.総括討論

16:30~17:00

5.18

■司会 西森 俊二<高知県> 佐川町教育委員会派遣社会教育主事
佐藤 敬子<大分県> 大分県教育庁教育委員会社会教育課社会教育主事

1.生涯学習の府「ルネサンス大学名教館21」^{ルネサンス}—その試練と今後の展望— 9:00～9:25

山本 清和<高知県> 佐川町教育委員会生涯学習係主幹

国のふるさと創生1億円を受け、平成3年秋、単位制度導入の町民大学として、コミュニティカレッジ「佐川ルネサンス大学」が開講された。町民の中に眠る何かを呼びさまそうと繰り広げられている「ルネサンス運動」の拠点基地として、また、これからの「生涯学習の府」として期待されている。これまでの経緯、成果、課題について発表を行う。

2.地域の新しい風 9:25～9:50

—大学の出前講座「大分大学米水津塾」^{よのう}の成果と課題—

小田 昭夫<大分県> 米水津村教育委員会生涯学習係

大学の教員が村に出向いて村民の身近な問題について講義をする「大分大学米水津塾」。開校式と終了式は大学で行う等、日常とは異なった雰囲気を取り入れながら、普段は気軽に学習できる機会を提供している。平成9年度からは単位制導入の試みも始められる。また「海辺の村交流館」を設け大学の教員や学生と村民との交流も深めている。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

3「ゼミナールFUKUOKA21」 10:25～10:50

—大学の資源活用と人材育成の方法—

近藤 暢也<福岡市> 福岡市教育委員会生涯学習部城南市民センター主任社会教育主事

「ゼミナールFUKUOKA」は、地域が抱えている様々な問題について考え、主体的に地域づくりに取り組むことのできる人材の養成を目的としている。その際、大学の持つ人材、情報、施設などを効果的に活用している。市民は、単に受け身で講義を受けるに留まらず、ゼミナール形式で主体的に学習し、レポート作成等を通して、問題意識を深め、解決の糸口を探り始めている。

4.ボランティアの派遣による学習支援 10:50～11:15

—糸島地区青少年高齢者等交流事業の取り組みと成果—

今村 節子<福岡県> 糸島地区ボランティア人材派遣事務局

糸島地区1市2町が連携・協力して平成7年度から特技等を持ったボランティアを募集し、小・中学校や地域の人々の学習活動を支援するため、要請に応じ指導者を派遣する事業を展開してきた。その経緯と現状を報告し、今後の展望について検討を行う。

5.総括討論 11:15～11:40

■司会 宇田川 学<鳥取県> 会見町教育委員会社会教育係長兼社会教育主事
小部 智子<佐賀県> 小部保育園園長

5.18

1. 過疎地域の生き残り作戦 — 「山村留学」の実践と成果 — 9:00~9:25

市川 二三<高知県> 葉山村教育委員会社会教育課主監
寺村 廣彦<高知県> 葉山村教育委員会社会教育課社会教育主事

過疎化、高齢化、少子化に対する地域の危機感は強く、活力ある地域づくりを進めているが、特に教育には力を入れている。女性グループ、青壮年会、そして地域世帯全戸が白石小学校PTA会員となり、平成7年度に「白石地区山村留学推進委員会」を発足させ、留学生を迎えることに成功した。都会の子と地元の子の双方に人間としてたくましく生きる力をつけていこうと、地域が一致団結して取り組んだ過程、活動の成果と課題などを発表する。

2. 学校教育と地域ぐるみの楽行共育 — 連携の試み — 9:25~9:50

松島 俊枝<島根県> 吉田村立田井公民館主事

教育は、空気のように当然そこにあるかのように思われている。また、それがなくては人間として生きていけない。この教育について、家庭も学校も地域もそれぞれに頑張っている。しかし、子供たちを巡る問題は大きくなるばかりである。簡単なようで難しい連携だが、子供たちと共に楽しみながら行なう「共育」を目指して、地域ぐるみで取り組んでいる。その具体的な取り組みの成果や問題点等について発表する。

~ ティータイム ~

9:50~10:25

3. 「えひめあやめ祭り」を核とする町づくりの成果と今後の課題 10:25~10:50

伊東 健児<佐賀県> 「久保泉町を活性化する会」会員・「走ろう会」会長

緑豊かな自然と歴史的文化財に恵まれた町を、さらに「明るく心暖かな住みよい町」にするために、町民総ぐるみスポーツの普及、特に町民挙げての「歩こう歩こう会」を開催。その仲間意識と連帯感から夜なべ談義を繰り返し、町を活性化する会を結成。活動の大きな柱として、えひめあやめの保存育成に力を入れており「えひめあやめ祭り」を開催している。今では全町民に定着しつつあるこれらの活動の一端を発表する。

4. 郵便局の試み — 絵手紙が結ぶ人の心 — 10:50~11:15

市原 久也<佐賀県> 佐賀市中央郵便局副局長

「下手でいいから」の言葉に誘われて、趣味として始めた絵手紙。受け取った方々から感謝の言葉を沢山頂き、一人でも多くの人々にこの感動を味わって頂こうと、小学校、公民館、各職場、病院などで絵手紙教室を開催し、大きな反響を得ている。電話やファックス、インターネット等の機械では伝えきれない感動がある。身近な花や果物で季節感を出し、相手への思いやりや感謝の気持ちを文章に託すことのできる伝達手段である。

5. 総括討論 11:15~11:40

5.18

■司会 松尾 透 <長崎県> 野母崎町企画課係長
青木真理子<島根県> 斐川町教育委員会社会教育主事

1. 田圃の中のキックベース大会「泥リンピック」のねらいと成果

9:00～9:25

小谷 順万<鳥取県> 日野町池津公民館長

地区の公民館活動の一環として、田圃の中でキックベースボールをやったら楽しいのではないかと思いついたのがきっかけで始まり、今年で4回目を迎える。第1回大会では財源ゼロだったのが、地区からの予算がつくようになり、会自体も大きくなってきた。大会は、キックベースボールだけでなく親子のサッカー大会、子どものドッジボール大会、鯉つかみなど、ドロを通じてふれあう楽しさをねらっている。企画の展開、成果などを発表する。

2. 「すいかながいも健康マラソン大会」の経緯と今後の展望

9:25～9:50

永田 洋子<鳥取県> 大栄町教育委員会教育課長補佐 (大会事務局)

地元特産の大栄スイカ食べ放題を売り物に、毎年7月の第1日曜日に開催している大会である。ランナーが7,000人を越えるこの会には、多数の町民がボランティアとして協力し、町をあげてのイベントとなっている。過去10回をふりかえり、大会発展の経緯、取り組みの成果と課題、今後の展望などについて発表する。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

3. ドロの海の活用「ガタリンピック」フォーラム鹿島の理論と実践

10:25～10:50

土井 敏行<佐賀県> 株式会社兼茂

地域おこしの力になろうと14年前から活動してきた市民会議「フォーラム鹿島」は、青年会議所、商工会青年部、農・漁協青年部、市役所若手職員の会、連合青年団等などのメンバーが約1,000名。そのメイン行事が、ドロの海を逆手にとった「ガタリンピック」である。5月の連休時、泥海を泳ぐガタフライ、ガタスキー競争等の催しに、全国から4～5万人が集う。地域の活性化と共に、国際交流、人材や郷土愛の育成をも意図した活動展開を紹介する。

4. 河川敷でのアウトドア・スポーツ事業の目的と方法

10:50～11:15

－ふれあいと自然体験の場の提供－

平川 裕之<福岡県> 田川市教育委員会生涯学習課体育係

地域の特性を活かし、英彦山川の河川敷でアウトドアスポーツ事業を展開している。この事業によって、子どもから高齢者まで、さらには親子・家族などがふれあい交流できる機会を確保するとともに、自然体験を通して、環境や自然を大切に作る心を育み、主体的に行動できる実践的な態度や能力を育成することを目指している。この事業の展開過程、問題点、成果等について報告する。

5. 総括討論

11:15～11:40

■司会 宮崎 克巳<大分県> 中津教育事務所生涯学習振興課長
 姫野 敦子<山口県> 岩国教育事務所社会教育課生涯学習ボランティア活動コーディネーター

5.18

1.古湯の映画祭「シネマクラブ」の成果と課題

9:00~9:25

森 俊二<佐賀県> 富士町古湯役場林業課

今年で14回目を迎える映画祭は、毎年9月中旬の3日間開催され、昨年の参加者はのべ約3,000人であった。当初は町行政が始めたが、2年目以降は青年団が企画、運営を担当、そのメンバーの有志で「シネマクラブ」を結成した。現在は、クラブと行政との実行委員会で動いている。クラブでは映画祭以外に上映会も開いており、現在約30名の会員には、町外の人も多い。富士町では近年「男はつらいよ」、「水の旅人」のロケも行なわれた。活動の経緯と問題点等について発表する。

2.ほっけもんの町おこし -「星降る町のコンサート」の経緯と展開-

9:25~9:50

種子田義男<宮崎県> 高崎町イベントサークル「遊学塾」塾長

消防団員のバンドを組んでいた2人のほっけもんが町おこしに挑戦、5年前にコンサートをスタートした。毎年8月中旬、天文台の真下の高台で開く「星降る町のコンサート」には、昨年約4,500人が集った。行政に財政面の援助をかけあったり、当日大雨に見舞われたり等などの初回からの苦労、失敗の数々と経験から得た成功するためのノウハウを紹介するとともに、若者を中心とする町づくりのリーダー育成の方法についても発表する。

~ ティータイム ~

9:50~10:25

3.大口ふるさと青年塾の多様な試み -郷土への貢献と連帯の模索-

10:25~10:50

中尾 雅幸<鹿児島県> 大口市助役

青年団が消滅して久しい大口市で、新しい形の青年団体が発足して2年目になる。郷土の発展のために活躍する青年を応援し、連帯感やコミュニケーションの輪を広げようと年間10回程度の活動を実施した。具体的には、協賛団体と世界的彫刻家を招いて意見交換を行ったり、フリーマーケット、市長と語る会を実施、チャリティーボーリングや陶芸等にも挑戦した。大口市の「潤いと活力のあるまちづくり」自治大臣賞受賞にも貢献している。

4.長崎街道まちづくり -一点から線への発展の軌跡-

10:50~11:15

井上 智明<福岡県> 長崎街道まちづくり推進協議会幹事長

平成元年から北九州市八幡西区を中心に地域活性化のための活動を進めてきた。その過程で、長崎街道をテーマにまちづくりをしている団体が多くあることに気づき、平成3年から、福岡、佐賀、長崎の街道筋の人々とのヒューマンネットワーク作りを目指して活動を開始した。平成8年4月には約50団体と共に「長崎街道まちづくり推進協議会」を設立、長崎街道フォーラム、奉行列車、マップづくりや団体支援など幅広い活動を行なっている。

5.総括討論

11:15~11:40